

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 6 月 30 日現在

機関番号：14201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03221

研究課題名（和文）祖廟進香における神と人との交歓に関わる文化人類学的研究

研究課題名（英文）Fraternization between Gods and devotees: anthropological study about visiting the ancestral temple and brothers temples

研究代表者

福浦 厚子（Fukuura, Atsuko）

滋賀大学・経済学部・教授

研究者番号：90283548

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：シンガポールの寺廟信仰に関わる人びとについてみると、トランス・ナショナルな展開が広範に存在する。国境を越えた兄弟寺廟の間で恒常的な交流がみられ、協働的な関係が創出されている。また、シンガポールの寺廟から中国福建省の祖廟への進香活動では信仰をめぐる相互依存関係が存在している。これらトランス・ナショナルな活動に加え、エスニシティを問わない寺廟でのトランス・エスニックな慈善活動によって社会格差への宗教側からの解決法も提示されている。

研究成果の学術的意義や社会的意義

シンガポールにおける道教系寺廟の宗教活動として研究に着手したが、マレーシアや台湾、中国との間に神や人びと、モノが行き交うことや、霊媒や諸宗教活動の社会の中での位置付けについて検討することができ、社会毎の視点を得ることができた。また国際学会や国際ワークショップにおいて発表したことで、関連するテーマや他の地域の専門家と意見交換することができ、新たな知見を得ることができた。道教系寺廟の宗教実践の多くには憑依信仰や呪術的な側面があり、その先行研究も多くみられるが、本研究によって宗教と社会とのより現実的な様相に関して検討し、宗教のもっている社会での位置づけや意義について問うた。

研究成果の概要（英文）：This study elucidates diverse aspects of Daoist worshippers' trans-national activities through examples of religious practices in a Singaporean temple. As this temple has maintained close ties with brother temples abroad, a kind of cooperative relationship has been created. Furthermore, these worshippers have often made visit to their ancestral temple in Fujian province for paying respect to Daoist gods, so that interdependent relationships have been made between them and their counterparts. In addition to these trans-national activities, they have practiced charities for every ethnicity in their temple, which suggests how to solve social disparities from the viewpoint of religious institution.

研究分野：文化人類学

キーワード：シンガポール 進香 寺廟 トランス・ナショナリズム 宗教 トランス・エスニック 慈善 祖廟

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) シンガポールは多民族からなる都市国家であり、グローバル資本の交易拠点でもある。住んでいる人びとも生業や教育などコスモポリタンな背景を持っているが、その一方で華人系の人びとは祖先の出身地である僑郷との関係を形成し、トランス・ナショナルな紐帯を強めている。それが顕著になったのは中国が改革開放政策へと転換し、しばらく経ったのちの1990年代になってからのことである。次第に沿岸部から外国人の出入りが可能になり移民第1世代が訪問していた当時から、第4、第5世代といった若い人たちが訪問するようになった現在に至るまで、どのような関係性が構築されているのか文化人類学的な視点から考察する。

(2) 1990年代後半から、海外在住華人が広東省や福建省の父祖の地にある祠堂や祖廟を再興する動きが活発化した。それに関してクアはシンガポール華人が福建省安溪にある僑郷を訪問し、村のインフラを整備し、祖先の地に住む人びととシンガポールの人びととの人的物的な関係づくりを明らかにした[Kua-Pearce 2010]。父祖の地を出てすでに第4、第5世代目となりつつある現在のシンガポール人からすると、祖先が移民した当時の出身村や移動の話もほとんど現実性を持たずに受け止められている。しかし彼らが上の世代とともに僑郷を訪問する経験はモノの流れや金銭的な支援が、豊かなシンガポールから中国へと一方的に渡る流れを作っているというよりも、国家の枠組みを超えた人の動きに付随して、多様な財の分配や大規模な儀礼を実施可能とするといった別の動きを示した。このような世界金融資本の流れとは異なる人とモノの動きに関してボランニーが述べた財の再分配の視点から捉え、それを神と人との交歓という局面から検討する。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は道教系の宗教が実践している父祖の地である中国南東部にある祖廟への進香(神像とともに信奉者集団が参拝や行列を行い、また宗教儀礼を実施すること)に着目し、その実践を神と人との交歓と位置づけ、彼らの訪問、現地の人びととの交流といった実践に関して、エスノスケープ、超越的な力の更新、スペクタクル性といった点を中心に明らかにし[アパデュライ 2004]、従来の交換に関する議論に新たな知見を得る。

(2) 進香活動によってシンガポールという国民国家の枠組みを越えて、中国南東部からシンガポールへ(あるいはマレーシアなど他の国を経由したのち)移民して4世代目や5世代目となる多くの華人にとって脱領域化したフィクションとしての祖国に対する、トランス・ナショナルな関心に伴って、国家への帰属意識やエスニシティが儀礼行為や宗教実践のなかでどのように表象されるのかを明らかにし、さらにそれを踏まえて宗教を通じた個人と国家との関係性について信仰を契機とした主体化の観点から明らかにする。

3. 研究の方法

(1) シンガポールの寺廟から中国福建省にある祖廟への進香活動を中心に文化人類学的手法を用いた調査を行う。またそれと比較するためにマレーシアジョホール州、台湾基隆市、台南市、屏東県にある兄弟廟から祖廟への進香活動やそれにまつわる諸活動について半構造的インタビューを実施する。

(2) 兄弟寺廟の間で進香を行っている場合、その関係性や祖廟との関係性について調査対象寺廟での管理維持をしている人や宗教職能者への聞き取り、祭礼での儀礼の参与観察、進香活動やそれに関連する宗教活動全般の人類学的調査を行う。

(3) 上記に併せて、関連する史料研究も実施する。

4. 研究成果

(1) 「信仰のトランス・ナショナルな展開について」シンガポールの調査対象寺廟B廟から中国福建省にある祖廟A廟への進香が実施されたのは1990年に入ってからであったが、同じ祖廟から台湾へ分祠した寺廟のなかには1980年代に福建省の祖廟へ進香を行っている寺廟C廟があった。台湾C廟の信奉者らは長らく祖廟を訪問できる日を待ち望み、それが可能になるとすぐに進香団を作り、進香を実施していた。祖廟A廟は、明の時代16世紀にはじまり今日に至る歴史をもつ寺廟であるが、1950年代の大躍進期間にその余波を受けて寺廟の建物は壊され、宗教施設としての機能が停止していた。1970年代、海外各地に出ているA廟の関係者らが喜捨を送り、寺廟の建造物が再建された。1990年代初め、台湾から進香で訪問した台湾人2人の支援で敷地内に寺廟や収蔵庫といった建造物が再建された。その後、マレーシアや香港、マカオなどといった国外や国内の兄弟廟の喜捨によりさらにいくつかの施設や設備が整備された。このようにシンガポール、マレーシア、香港、マカオ、台湾、オーストラリアなど各地に渡った移民やそれ以降の世代の人たちが進香という形で僑郷へ戻り、宗教活動を行っている。トランス・ナショナルな関係性は祖廟への進香による訪問だけでなく、それによってさまざまな世代が僑郷を訪問し村の再建への感情の醸成、社会的経済的関係の再構築などが実施されている。なかには、海外からの進香の訪問によって新たな生業を創出した個人もあり、トランス・ナショナルな展開が信仰

を介した創業に至った例として指摘できよう。

(2)「神と人との交歓について」台湾やマレーシア、シンガポールなどそれぞれの国のなかにさらに A 廟から分祠した兄弟廟が複数存在しており、その多くは祖廟へ進香を実施していることが明らかになった。祖廟 A 廟では、国内各地の兄弟廟からだけでなく世界各地から進香団が訪れるており、彼らが喜捨した金額と名前は寺廟の敷地内の壁面に刻まれている。その壁面は寺廟内のあらゆる建物に及ぶ。また、廈門の空港口ビーでは、三々五々各地から到着する飛行機から進香団の一行が神像を携え、様々な祭祀の道具と共に降り立ち、行列をなしている。進香の活動がもつスペクタクル性はこのような場所においてさえも示されていることがわかる。また進香団の人たちは線香や紙銭、蠟燭など祭祀に用いる道具の一部を出発地で揃え、爆竹や大型の線香などは中国で用意する。普段は各地に安置されている神像が祖廟を再訪する際に、随行する人間だけでなくそれにまつわる道具も 2 つの土地の間を往来しているのである。さらに、別の調査寺廟では福建省からシンガポールへ分祠して 108 年となるのを記念して、進香を実施した。その際には 100 人近い進香団の信奉者が祖廟へと続く道を霊媒と共に行列を行った。その数年後には、今度は中国の祖廟の神像と祖廟関係者をシンガポールの寺廟へ招き、相互訪問が実現した。双方の関係者並びに信奉者の訪問に伴い、新たな関係性の構築が行われ、その関係性はその後も継続しており、信仰の面だけでなくさまざまな局面に影響を及ぼしていることが明らかになった。

(3)「祖廟からみた兄弟廟について」僑郷から移民していった人びとが携えて行った祖廟の神像や香炉の灰等を基にそれぞれ移民先で分祠した兄弟廟は、祖廟からみると海外の重要な支援者と位置付けられている。その具体的な例として、ある国に分祠された寺廟の信奉者が進香を行った際、参加者が少人数であったせいか、あるいは通貨の交換レートのせいか喜捨の金額が他の国からの進香団よりも少なめであったようで、いささか歓迎されていないような印象を受けたと語っていた。祖廟の敷地内の石の壁面に刻まれた喜捨した人の氏名と金額はそのまま当事者の名誉でもあり、祖廟にとっても同様の意味をもっている。また同じ僑郷のなかにはほかにもいくつもの道教系寺廟や仏教寺院が建っており、それらを維持する信奉者の人びとに対しても石の壁面に刻まれた多数の氏名と金額は支援者の存在を示す表象となっている。

(4)「兄弟廟間の関係について」祖廟から台湾にいくつかの寺廟が分祠しており、現存しているが、それらが台湾内において相互に行き来する関係は見られなかった。シンガポール国内の兄弟廟は 3 つ以上存在しているが、そのうちの 2 つは相互に理事や信奉者が祭礼ごとに行き来し、喜捨を行う関係がある。またシンガポールのこの 2 つの寺廟のうちの 1 つからは、1970 年代にマレーシアへと再度移民していった人たちがジョホール州において、2 か所の集落で寺廟を開いている。それらの兄弟寺廟とシンガポールの先に書いた 2 つの寺廟との関係性は 1970 年代から今日に至るまで理事や信奉者による祭礼ごとの相互の訪問等といった形で継続している。関係者がマレーシアへと移民していった当時のことをまだ直接知っている人びとがいるため、若い人たちにその当時の苦労話やかつての信仰の様子などが語られることがよくある。また、今日ではマレーシアの兄弟寺廟のある集落からシンガポールへ働きに来ている人が多数おり、そういった単身赴任で働く人びとにとって、シンガポールの兄弟寺廟は故郷を思い出すやすがになっており、交流の場にもなっている。

(5)「トランス・ナショナルとトランス・エスニックな活動について」調査対象となったシンガポールの寺廟の場合、祖廟と海外の兄弟寺廟の間では進香という宗教活動によるトランス・ナショナルな関係が 1990 年代以降盛んになっている。それと並んで、当該寺廟においては、華人系、マレー系、インド系の人びとをつなぐトランス・エスニックな活動が 2015 年から実施されておき、その活動も年々盛んになっている（下記の表のとおり）。寺廟では 1980 年代以前から



すでに毎週実施されている霊媒へ個別に相談するセアンス儀礼において、マレー系やインド系の人も依頼に訪れている。しかし、そういったケースは頻度ですると 1 か月に数回程度であった。このトランス・エスニックな活動は、寺廟の敷地内のオープン・スペースで、近隣に住む独居老人を招いて慈善昼食会を開催するものであり、多数がイスラームを信奉するマレー系の人びとや多数がヒンドゥー教を信奉するインド系の人びとなどエスニック上、宗教上において多様な人びとを招いた。低所得と判断

される一定の基準をもとに、こういった独居の高齢者を招き、また彼らの日常を支えているヘルパーの人たちも一緒に寺廟の敷地に招き、歌や踊りやゲームをしながら食事会を開催している。ヘルパーの人たちは概して年齢層が若く、慈善食事会の場合はエスニック上、宗教上だけでなく、年齢の上でも多様な人びとが一堂に会する機会となった。進香のようなトランス・ナショナルな活動と慈善昼食会はその目的も方向性も全く異なるが、同じ寺廟が実施している点に

注目し、海外での学会等において発表した。

(6) 「信仰をめぐる国内の制度と寺廟との関係について」シンガポールにおいて寺廟での宗教活動は制度的にはさまざまな制約のもとに置かれている。例えば、年中行事の一環として祭礼での行列が実施される場合、1か月前に関係諸機関へ行列を申請し許可を得ることになるが、それが認められるとは限らない。歩くのは歩道か道路か、その行列はどれくらいの長さになるのか等、当日どの神霊がどの霊媒に憑依するのかすらわからない状態でいくつもの可能性を踏まえて事前に申請しなければならない。他の諸事情を勘案して当局は行列の申請に許可を下す。シンガポールはマルチ・カルチュラリズムに基づく社会制度を築いているが[Noraini & Leong 2013]、信仰もそれぞれの範囲であれば自由な裁量が任されているのかということそういうわけではない。むしろどの宗教も活動を維持し実践するためには制度的制約のなかでの創意工夫が求められている。これはほんの一例であるが、このようなことに類似するいくつもの事情を抱えて、寺廟がどのように信奉者の信仰に支えられてその活動を維持しているのかについて検討した。なお、上記のように明らかになった点を国内外の学会で発表したことを踏まえて、その際の質疑等を考慮に入れて、今後は諸成果を全体としてさらにまとめていく予定である。

<引用文献>

アパデュライ．アルジュン 2004 『さまよえる近代』門田健一訳、吉見俊哉解説、平凡社。
Kuah-Pearce. Khun Eng. 2010 *Rebuilding the Ancestral Village: Singaporeans in China*.
Hong Kong: Hong Kong University Press.
Noraini. M. & C.H. Leong. 2013 Multiculturalism in Malaysia and Singapore: Contesting models. *International Journal of Intercultural Relations*. 37: 714-726

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計4件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 2件）

1. 発表者名 Fukuura, Atsuko
2. 発表標題 'Growing Mutual Aid: Transnational and Transethnic Worship about Singapore Daoism Temple'.
3. 学会等名 workshop, "Chinese Temples in Southeast Asia". Organized by Asian Research Institute, National University of Singapore. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福浦厚子
2. 発表標題 「シンガポール道教系寺廟の今日的展開 祖廟・兄弟廟との関係」
3. 学会等名 日本文化人類学会第52回研究大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Fukuura, Atsuko
2. 発表標題 'Doing a Good Deed: Devotees' Activities in a Daoism Temple in Singapore'. On the Organized Panel Session
3. 学会等名 the Association for Asian Studies in Asia 2019 Annual Conference. Organized by Association for Asian Studies and Thammasat University. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 福浦厚子
2. 発表標題 複数性と統一性のなかの宗教：シンガポールの寺廟におけるモラル・エコノミーのゆくえ
3. 学会等名 日本文化人類学会第54回研究大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 福浦厚子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 春風社	5. 総ページ数 312
3. 書名 都市の寺廟：シンガポールにおける神聖空間の人類学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

<p>(辞書項目執筆)</p> <p>(1)福浦 厚子著,2017年11月30日「シンガポール」の項目、『華僑華人の事典』華僑華人の事典編集委員会篇、310-311頁所収、丸善出版。</p> <p>(2)福浦 厚子著,2017年12月「シンガポールの暦」の項目、『世界の暦事典』中牧弘允篇、90-93頁所収、丸善出版。</p>

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----